

平成28年度明るい選挙推進優良活動表彰団体の実践活動②

啓発活動及び主権者教育活動を 軸にした取り組みについて ～岐阜県若者の選挙意識を高める会の活動～



笹 俣 友 杜

(岐阜県若者の選挙意識を高める会代表・岐阜大学教育学部4年)

① 団体の紹介

私たちの団体は2015年2月27日に発足致しました。私の2学年上の先輩方が初期のメンバーとなります。現在は4年生9名、3年生28名のメンバーで啓発活動等を行っています(2017年6月現在)。団体結成のきっかけは、2015年4月の統一地方選挙の際に、学内での活動を拠点に投票率向上を狙いとしたことです。毎年世代間の引き継ぎを行いながら活動をしています。

団体は社会科の教員を目指す学科のメンバーで構成されています。特に公民科について日頃から試行錯誤しながら大学での勉学に励んでいます。次の将来を担う子どもたちの公民的資質を育成するためにどうしたらよいのかについて一番に考えています。公民的資質を育成するにあたって主権者教育は欠かせません。子どもたちが、これか

らの社会をより良く生きるために、どのように考えて行動していくことが大切なのかを学校教育の場で考えさせていかなければならないと感じています。このような思いをもつメンバーが集い、子どもたちだけでなく同じ世代の大学生に向けても、主権者意識、投票の啓発を行っています。

② 投票啓発活動について

昨年の7月に参議院議員選挙が行われました。それに伴い私たちは、岐阜大学内で投票の啓発を行いました。その際に呼びかけだけでなく自作したビラ、投票の情報を掲載した汗拭きシートやウェットティッシュを配布しました。啓発活動は岐阜市の選挙管理委員会に、このように呼びかけたい、こんなことをしたい、と多々要望を出させて頂きながら行いました。ビラのキャッ



岐阜大学内にて参院選投票啓発の様子



ラジオ局にて生放送の様子

チラシや写真等も打ち合わせを重ねて作り上げました。昨年は7月1日に岐阜大学に期日前投票所が設置されるということで、目の前にいる同じ大学生の有権者に向けて強く呼びかけを行いました。岐阜大生だからといって必ずしも、岐阜県民、岐阜市民というわけではありませんが、私たちの呼びかけをきっかけに選挙に関心を抱き投票所へ足を運んでくれた学生がいたことは大きな収穫となりました。

この啓発活動を新聞等のメディアにも取り上げて頂き多くの県内の方々へも広めることが出来ました。今回の参院選は選挙権年齢が引き下げられてから初めての国政選挙ということもあり、例年よりも社会の関心やメディア等の注目度も高かったと感じられます。18歳、19歳の新たな有権者に対して直接働きかけることが出来、活動を

行う価値がありました。私自身も当時20歳を過ぎて、有権者として初めての選挙だったため新鮮な経験ばかりでした。大垣のソフトピアジャパンのラジオスタジオから、FM岐阜にて投票の呼びかけの放送と私たちの団体の紹介をさせて頂きました。私たちの発信力だけでの活動には限界がありますが、メディアに取り上げて頂くことでより多くの方々へ私たちの思いを届けることができるので、これからも一生懸命に活動させて頂きたいと思います。

年が明けて今年の1月には、岐阜県知事選挙が行われました。その際も岐阜大学内に期日前投票所が設置されることを受け、学内において自作ビラ、投票情報記載のカイロや入浴剤を配布して啓発活動を行いました。参院選時のようにFM岐阜にて投票啓発のラジオ放送を行いました。また県政ホットラインの収録取材にも取り上げて頂きました。

③ 政策分析

～参院選岐阜選挙区候補者について～

昨年7月9日には参院選の岐阜選挙区の3名の候補者についての政策分析を岐阜大学内のアカデミックコアという多目的スペースで行いました。政策分析を行うにあたって各候補者の選挙事務所を訪ねて資料を頂いたり、事務所のスタッフから話を



県政ホットライン撮影の様子



参院選候補者の政策分析の様子

伺ったりもしました。選挙活動の拠点となる場所で各候補者の熱意を肌で感じる事が出来ました。準備した資料をもとに経済、社会保障、安全保障、増税、子育てなどの項目ごとに各候補者間の公約の違いや類似している点を見つけ出し、分析を行いました。表に出されている公約だけでなく、争点隠しともいわれた憲法改正についても着目しました。分析を行うことで候補者の公約と所属する政党の掲げる公約との間にも違いがあることや、実現可能性の低い公約が数多く存在することを発見することが出来ました。

私たちもこのような機会は初めての挑戦でした。これからの選挙の際にも、より細かく多角的な視点から分析をして、投票する候補者や政党を選んでいけるようにしたいと思います。また、有権者の方にも広めていかなければならないと考えています。その際に最も注意しなければならないのは、政治的中立性の確保です。

今回行った政策分析の際にも、誰か一人の候補者や政党だけを持ち上げたり、批判したりするのではなく、すべての候補者について平等に分析することを心がけました。学校現場での主権者教育が求められていますが、それに取り組もうとすると、やはり政治的中立性の確保をどうするのかという問題が立ちはだかります。しかし、今回行った方法ではその問題について十分にクリアしているので、より深く、高度に分析方法を固めていけば、教育の現場だけでなく、有権者の方々にも広めることが出来るのではないかと手応えを感じています。今回の活動もテレビや新聞社のメディアに取り上げて頂きました。

④ 教育からアプローチをする活動

私たちの団体は教育学部の学生で構成していることもあり、主に小・中学生に向け

て教育という面からも主権者意識高揚のための活動を行っています。内容としては一昨年から教育の現場に出て、授業実践という形で活動しています。

一昨年に岐阜大学教育学部附属中学校にて、昨年は岐阜市立長良東小学校にて、授業実践をさせて頂きました。

岐阜大学教育学部附属中学校での実践では、3年生を対象に「選挙について考える」というテーマで出前授業を実施させて頂きました。大阪都構想を巡っての選挙の結果から若者の投票率の低さが与える影響を考え、投票することの意義を深める授業を行いました。18歳から有権者となる生徒たちに、どうしたら自分たちが有権者になったら投票しようと思うかを考えてもらいました。生徒たちの授業後の感想として、「選挙に対して堅苦しいイメージを持っていたけれど、仲間同士で話し合いをすることで身近なものに感じる事が出来た」という言葉を聞くことができ、大変嬉しく思いました。

昨年2月の長良東小学校での実践では、6年生を対象に授業実践しました。この実践では授業内で使用する資料として、私たちの団体と岐阜市選挙管理委員会とコラボレーションして作成した「選挙について考えてみよう」というリーフレットを使用しました。このリーフレットは岐阜市内の小学校6年生全員に社会科の副教材として配布されるものです。教材の作成段階から、実際の学校現場で使用して頂くことと、自分たちが授業実践することを念頭に置いて教材を仕上げました。副教材のテーマは、3人の児童会長候補が命を守る訓練の活動のマニフェストを掲げて選挙に立候補し誰を選ぶのかという内容にしました。子どもたちの学校生活との関連も踏まえた内容にすることを意識しました。

授業実践の際には、岐阜市の選挙管理委



作成を手掛け、授業内で使用した副教材

員会に本物の投票箱と投票用紙を貸し出して頂きました。せっかくの機会であり、児童たちに少しでもリアリティを感じてもらうため、本物にこだわりました。間近で見る投票箱に児童たちも興味津々の様子を示してくれて好感触でした。改めて子どもの発達段階を適切に捉え、子どもたちの興味・関心に的確に働きかけることの大切さに気付かされました。授業内の模擬投票では児童たちに根拠や投票意思を明確に持ってもらうようにしました。なぜ、その候補者を選んだのかという理由を話し合うことを一つのねらいとしていたからです。また当選した候補者以外に票を投じた児童から、当選者には他の候補者のマニフェストの良いところを取り込んで欲しいという意見が出てきました。対立し合うのではなく、全体として適切な折衷案を形成しようとする

意見や姿勢がみられ、大変価値のある良い議論となったと感じています。今回の実践で得られた経験から良い点と改善点をこれからの活動の発展に活かしていけるよう努めたいと思います。

⑤ 各種フォーラムへの参加

明推協主催の若者フォーラムや研修会等にも参加させて頂いております。

10月に京都にて行われた若者リーダーフォーラムでは、東海北陸、近畿地方で活躍されている明るい選挙推進団体や若者ネットワーク団体の方との交流が出来て、大変有意義な機会となりました。講師の方の講演やワークショップも今まで気づけなかった視点や、投票率の現状とアンケートによる意識調査の結果を知り、活動をもっともっと広げていかなければならないと感

じました。

昨年東京で行われた「若者フォーラム 2016」は今まで参加したフォーラムのなかで、最大規模であり、参加する団体の数も多く大きな刺激を受けました。全国各地の方と明るい選挙の実現について、活動の現状等を語り合う場は、とても有意義であると改めて感じました。各団体の活動や取り組み方から、良いところを沢山学ばせて頂くことができました。自分たちの団体にしっかりと持ち帰り、精錬して活動をさらに高めていきたいと思っています。

また、県内では昨年12月に行われた中濃圏域明るい選挙推進研修会に参加させて頂きました。この研修会では、私たちの団体の活動について講演させて頂きました。講演という形で、地元で取り上げて頂く機会は初めてでしたが、各地域の選管の方や選挙啓発団体の方に直接発信出来るととても貴重な機会となりました。これからも各地のフォーラムや研修等に積極的に参加させて頂けるよう、活発に活動をしていきます。

⑥ 今後の活動について

現在私たちは、若者の投票率向上のための啓発や、将来の有権者である子どもたちに向けて活動させて頂いています。しかし、活動の成果が明瞭に表れていないという課題があります。啓発活動後の投票率だけでは見えてこない事実や、果たして本当に効果があったのかということもチェックすることが難しく、常に悩みながら活動しているのが実情です。フォーラムで他の団体の方も共通の悩みを抱えてみえました。やはり低投票率の問題は全国的な難題だと感じました。だからといって活動を止めてしまっただけではさらに問題は深刻化してしまうので、微力ながらも確かに実を結ぶような活動をこれからも絶えず行っています。

また教育の面からの活動をさらに活発に



中濃総合庁舎にて講演の様子

していこうと考えています。今年も副教材作成の依頼を頂いているので、前回よりも良質な教材の作成とそれを活用した授業実践を行いたいと思います。ただ投票することを勧めるのではなく、子どもたちが投票する意義を自ら見つけ、自分の意見と候補者のマニフェストと照らし合わせた上で投票行動する力を習得できるようにします。子どもたちが有権者となった時に、聡明な有権者として社会に一票を投じられることを私たちは切に願っています。また、間もなく有権者となる生徒、既に有権者である生徒が共存する高等学校での活動の実践も構想しています。生徒たちが政治的関心を高められ有意義な活動の内容を企画します。

啓発、主権者教育活動と自分たちの投票をもって、岐阜県、日本の将来と国民の平和で豊かな暮らしのための「明るい選挙」を実現できるよう精一杯努力していきます。

この度は、私たちの活動を多くの皆様方にご周知頂けるこのような機会を頂き、大変ありがとうございます。月刊選挙当号をお読みになられた方々に、私たちの活動についてご理解、応援頂けると幸甚に存じます。